Ⅰ　実践

1　実践テーマ

教育活動全体を通した，生徒一人一人の自己肯定感や思いやりと他者理解の心の育成

2　実践内容

⑴　あいさつ運動

この活動は，生活委員が中心となって，年間を通して，生徒と保護者が一緒にあいさつの啓発に努めるものである。毎月第１・第３月曜日の登校時に，各学級当番制で学年ごとに，正門・裏門・昇降口前に分かれて取り組んだ。また，11 月には，「さわやかマナーアップ運動」として，学区の小学校，多賀高校と連携して実施した。本校の生徒だけでなく，小学生，高校生や地域の方々にも「おはようございます」と進んで挨拶する姿が見られた。生徒同士だけでなく，地域の方々と挨拶をすることで，豊かな人間関係を形成する機会となった。

⑵　人権意識を養うための啓発活動

ア　人権メッセージへの取組

県人権啓発推進センター主催の「人権メッセージ」に全校あげて取り組んでいる。思いやりや命の尊さについて徒一人一人の言葉で表現した。特に，悩んでいる人への励ましの言葉やかけられて嬉しかった言葉などが多かった。今年度は中学校部門優秀賞に３年生の作品が１点選ばれた。友達が「頑張ろう」と自分に寄り添ってくれた励ましの体験を綴っており，生徒にとって身近な事柄として考えることができた。

イ　人権作文や人権ポスターへの取組

本校では，国語科の夏休みの自由課題として人権作文に取り組んでいる。中学生人権作文コテスト茨城県大会へ１２１点を応募することができた。その中から，金賞１名，銀賞１名，銅賞３名受賞することができた。また，美術科の自由課題として，人権啓発ポスター制作を行い，コンクールへの応募をし，人権意識を養うための機会となった。

⑶　日立特別支援学校との交流

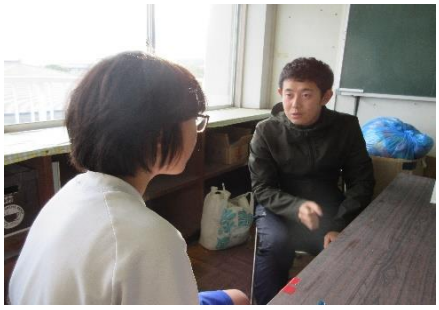
第１学年の生徒が，毎年，日立特別支援学校の生徒と交流を行っている。各クラスで遊びを計画し，準備に取り組んだ。交流当日は，輪投げ，射的ゲームや魚釣りなどクラスごとにアトラクションを設置し，分かりやすいように手本を見せたり，一緒にゲームをしたりして笑顔で取り組む姿が見られた。相手の立場に立って考え，思いやりの気持ちをもって自主的に活動することの大切さを学ぶ交流となった。

⑷ 校長賞の授与

本校では，「自ら感じ自ら考え実践する生徒，心豊かで思いやりのある生徒，心身ともにたくましい生徒」の３つの目標がある。それらを目指し，日々精進する生徒を称賛するために「校長賞」を授与している。教師が，礼儀・態度，思いやりや行事での活躍など，生徒の頑張りや良い行いを推薦している。また，学校長より表彰されることで，自己肯定感が高まるよう実践した。

⑸ Q-U アンケートや生活アンケートの実施

年に２回 Q－U アンケートを行っており，その結果を分析して学級経営に生かしている。また，学校生活やいじめに関するアンケートを毎月実施し，生徒の悩みや不安を把握すると共に面談を行うことで，生徒が安心して学校生活を送れるように個に応じたきめ細やかな対応に繋がった。



⑹ 幼児とのふれあい体験（家庭科）

３学年の家庭科「幼児の生活と家族」の単元では，幼児との生活で大切なことや触れ合い方を学習した。学んだ知識を生かし，幼稚園に行って幼児との触れ合い学習を行った。最初は，力加減が分からず不安を抱きながら接する様子が見られたが，徐々に幼児も生徒も笑顔で玩具を使って遊んだり，絵本を読み聞かせしたりする体験的な活動となった。

３　成果

本校では，高齢者施設での吹奏楽部の演奏や市主催のふれあい運動会でのボランティア活動などを行っている。さまざまな交流や活動を通して，相手を思いやる心や尊重する態度を育むとともに，他者への理解を深めることができた。また，「いのちの教育」講演会や「スマホ・ケータイ安全教室」を催し，自他の生命を尊重する心を育んだり，SNS などインターネット上の人権侵害やトラブルの未然防止など情報モラルの向上を図ったりすることができた。校長賞や各学級で毎日取り組んでいる友達を称賛する活動 MVP などを通して，学校内外の活動や行動を称賛することで，生徒の自己肯定感を高めることができた。

II　今後の課題

人権教育は，全ての教育活動の中で実践していくことが求められている。本校では，年間を通して，人権を意識することができる交流や活動が盛んである。今後も，これらの活動に継続して取り組んでいきたい。また，実践報告として，国語科，美術科，家庭科での学習や課題を取り上げたが，全教科で人権を意識した学習内容や活動を実践していきたいと考える。そのためには，人権について校内研修に励み，人権についての知識や理解を深め，人権教育に関する指導力の向上を図りたい。